

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

平成29年 5月 16日

高知市長 岡崎 誠也 殿

提出者

住 所 高知市一宮2651番地2

氏 名 一宮生コンクリート株式会社

代表取締役 山崎 一寛

電話番号 088-845-0020

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので提出します。

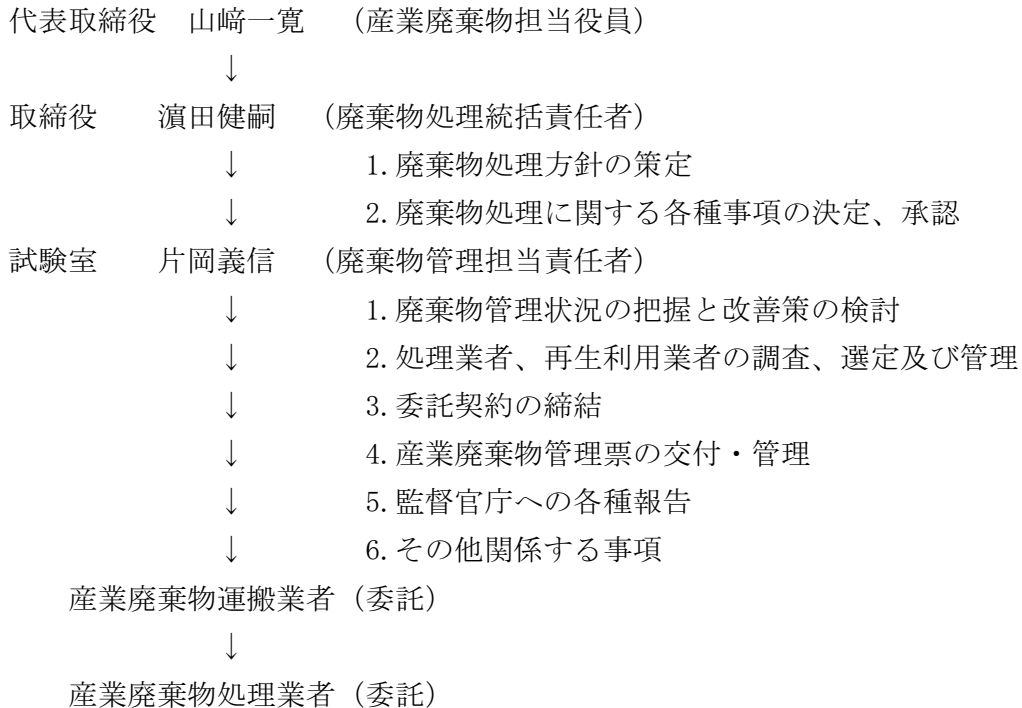
事業場の名称	一宮生コンクリート株式会社
事業場の所在地	高知市一宮2651番地2
計画期間	平成27年4月1日 から 平成32年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	窯業・土石製品製造業
②事業の規模	前年度実績 514,219,732円
③従業員数	正規社員 23名 パート社員 3名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>注文 → (砂利・砂・セメント・混和剤) 練混 →</p> <p>ミキサー車での出荷 → コンクリート打設 → 残コンクリート持帰り</p> <p>① → ブロック製造販売</p> <p>② → 産廃ストック → 運搬業者 → 処分場(再生)</p> <p>(再生品目 RC-40・RC-30・RM-30・RC5-0)</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (28年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	排出量	2,846 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	排出量	1,700 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
1. 注文段階でより正確な必要数量を算出するために、得意先業者にお問い合わせすると共に当社社員が必要数量の計算を手伝い、産廃発生量を抑制する。 2. 最低出荷数量は現在0.5爾で、それ以下の出荷は断っているために無駄な注文が発生する。これを引き下げ、0.25爾から配達することとし、加えて0.01爾単位での無駄のない発注を受け付けることにより産廃発生を抑制する。 3. 26年度ブロック制作型枠を計画通り10個に増設した、今後制作ロスを無くして、日産10個のブロックを制作出来るよう整理し、産業廃棄物を減少さす。 4. 社内教育研修会を利用して環境問題全般についてと、産業廃棄物の減量について研修をし、この問題についての全社員の共通理解を得られるようにする。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	ガラス・コンクリート陶磁器くず
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	ガラス・コンクリート陶磁器くず

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	2,846 t	t
	(これまでに実施した取組) 1. 26年度計画通り制作型枠を2個増設し10個の制作型枠で処理した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	2,500 t	t
	(今後実施する予定の取組) 1. 26年度ブロック制作型枠を計画通り10個に増設した、今後は制作ロス無くして、日産10個のブロックを制作出来るよう整理し、再生利用を増やす。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	全処理委託量	1,700 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,700 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 注文段階でより正確な必要数量を算出するために、得意先業者にお願いすると共に当社社員が必要数量の計算を手伝い、産廃発生量を抑制する。 2. 最低出荷数量は現在0.5爾で、それ以下の出荷は断っているために無駄な注文が発生する。これを引き下げ、0.25爾から配達することとし、加えて0.01爾単位での無駄のない発注を受付けることにより産廃発生を抑制する。 3. 26年度ブロック制作型枠を計画通り10個に増設した、今後制作ロス無くして、日産10個のブロックを制作出来るよう整理し、産業廃棄物を減少さす。 4. 社内教育研修会を利用して環境問題全般についてと、産業廃棄物の減量について研修をし、この問題についての全社員の共通理解を得られるようにする。 		
※事務処理欄			